

セーブポイント

【登場人物】

中本 博美 (39) タクシー運転手 / ゲーム実況者

中本 隆志 (43) 博美の兄 / 会社員

寺井 樹 (36) 博美の同僚 / 事務職

林あずさ (18) 高校3年生

視聴者の女

オープニング。

舞台にたらたらと現れる男。博美。出かける準備をしている。

音楽に合わせて登場する3人の役者たち。

4人は好き好きに世間を過ごしている。

やがて博美、ステージへ。「ヒロミンの動画」の文字が登場。一変して陽気に話し始める博美。それを眺める3人。

博美

えー、あー。どうも！ご覧のみなさんはじめまして。ヒロミンと申します。えー、わたくしです。今日からゲーム実況動画というものを始めることにしました！僕ゲームが大好きなんです。アクション系とかホラー系とかね、もちろんRPGとかもやりますし。フリーゲームなんかもやっていきたいなって思っています。他にもね、視聴者のみなさんのリクエストなんかもいただきながらやっていきたいと思っています。あー、そう、ちよつと今更なんですけど自己紹介しますと、名前はヒロミン、本名は非公開、年齢は非公開、住まいも非公開。って名前以外全部非公開じゃねえか！ってね。いやいやいや(笑)もちろん視聴者のみなさんと仲良くなっていくうちに少しずついろいろ自分のこともね、お話していきたいと思っ

けどね。ええ。

さて！今日は初めての動画ということであの有名なフリーホラーゲーム「赤鬼」やっていきたいと思えます。みなさんいきますよ。せーの！ヒロミンGO！って掛け声でこれからやっていきますんでね。びっくりした？評判悪かったら変えまーす。では、どうぞ。

背景の文字が消えると、またタクシー運転手の博美に戻る。車のシートに腰かけ世間を眺める博美。通知音が鳴り、女が登場。

女

ヒロミンさん、はじめまして。初めての動画投稿おめでとうございます。編集がとてもお上手ですね。初めてとは思えませんが。テロップも面白くてお腹を抱えて笑ってしまいました。面白いのであと2回くらい見ようと思っ

回の動画も楽しみです。頑張ってくださいね。

博美 あ、ああ。

女が話すのをただ眺めている博美。
女、去る。

と、素早く車から降りる博美。
ドアパンチされかけるも、ギリギリで避ける寺井。

二場

博美、車に乗り込む。するとそこは博美が勤めるタクシー会社になる。

速足で近づいてくる男。寺井。

運転席の窓越しに、車内にいる博美に話しかけてくる。

寺井 中本さん。

博美 ……

寺井 ちょっと中本さん。

博美 ……(え?と聞こえていない様子)

寺井 いや、開けてくださいよ(とジェスチャー)

博美 ……(ん?と動きを真似する)

寺井 いやなんで! 分かるでしょ普通。開けてくださいって。

博美 ……(うんうん、と頷くが、開けない)

寺井 はあ!? 何この人…いや、だから開けて! 窓! ま・ど!

博美 魔王…?

寺井 ま・ど・あ・け・て! ここ! これ! (と窓を叩く)

寺井 うわ!

博美 なんですか。

寺井 なにしてんすか!

博美 何がですか。

寺井 いや危ないじゃないですか急に開けたら。

博美 降りろって(言うから)。

寺井 開けるって言ったんです! 窓!

博美 あ、なるほど(と車内に戻ろうとする)

寺井 いや。なんで戻るんですか。

博美 ……開けるって。

寺井 いやいやいいですって窓はもう。

博美 え、じゃあなんで俺呼ばれたんですか。

寺井 話があるからに決まってるでしょう。なんでそこまで言わな

いと分かんないのかな…

博美 あ、はあ。なんででしょうか。

寺井 吉野さんのことです。

博美 幾三さん。

寺井 え? 誰ですかそれ。

博美 吉野幾三さん。え、ドライバーの。

寺井 ああ、あのおじいちゃん？ 幾三さんって言うんですけど。

博美 幾三さん。

寺井 へえ。

博美 幾三さん。

寺井 いやいいですってそんな何回も言わなくても、

博美 あ、いや。(と手で示し) おつかれさまです。

寺井 え？

と振り向くと、幾三さんがやってきたらしい。

自分が呼ばれたと思って寄ってきた様子。

寺井 え、ああ、違います呼んでないです。

博美 (なんか幾三さんに小突かれたりして) ちょっと、ふふ。

寺井 ……

博美 え？…ああ、いいですね。明日とか？

寺井 ……

博美 えー無い無い、ちよつともう、ふふ(と幾三とじゃれている)

え？ ふふ。え？ もう。ふふ。

寺井 えっ(と、ついでに小突かれる)

博美 おっ？ ういゝ

寺井 ちよつ、なに、(巻き込まれている)

博美 ああ、一緒に？ ふふ、え？ ふふふ、

寺井 いいかなもう！！

博美 え？

寺井 いいかな！ 俺、話して。幾三さんどうも！ ちょっと今中本

さんにお話があるんでもう行ってもらっていいですか！

博美 ……

寺井 はいはい！ お疲れ様でした。

博美 ……(ういっす、と手をあげて幾三を見送る)

寺井 ……いいですか。

博美 あ、はい。

寺井 吉野さん。あーその、事務所の女の子の方の。吉野さん。

博美 ああ。はい。

寺井 気を付けてもらえますかね。

博美 はい。

寺井 気を付けてもらいたいですよ。

博美 ……ん。何が。

寺井 いや。正直こんなこと年上の人に言いたくないんですけど。

まあ立場的には俺の方が上司っていうか、ここに長くいるんで、俺がちゃんと言ってやるのが筋かなって。

博美 はあ。

寺井 中本さんはほとんど事務所来ないから知らないと思いますけど。最近吉野ちゃん、あーいや、吉野さん。元気無いですよ。

博美 はい。

寺井 で、俺この前見たんですよ。休憩室で吉野さんと一緒にいた

でしょ。

博美 まあ、たまたま。

寺井 気を付けた方がいいですよ。ここの休憩室、外から丸見えな
んで。

博美 え、だから気を付けるって何を。

寺井 鈍感な人だなあ。そこまで言わせます？一応気を使って遠回
しに言わせていただいてるんですけど。

博美 ？

寺井 中本さんってもう40手前ですよ。

博美 はあ。

寺井 吉野さんみたいな若い女の子に手出すのはやめましようよ。

博美 は？

寺井 そういうことでしょう。彼女に何したのか知りませんけど。

あの日から元気ないんですよ吉野さん。

博美 いやいや。

寺井 うちも職場でそういう問題起きたってなるといろいろ都合悪
いんですよ。お客様商売なんで。

博美 あの、知らないんですか。

寺井 え？

博美 聞いてないんですか。吉野さんから。

寺井 何が。

博美 経理の金井さん。

寺井 敏子さん？

博美 はい。あの人と上手くいってないらしくて。吉野さん。

寺井 ……どういうこと。

博美 いや、俺も現場にいたわけじゃないから知らないですけど、
事務所に二人きりになるとなんかこう、結構当たりがキツイ
らしくて。

寺井 金井さんが吉野さんのこといじめてるってこと？

博美 いや、吉野さんはそこまで言っただけでなかったですけど。冷たく
されたり舌打ちされたりするって。

寺井 でも。金井さん普通に優しいおばちゃんだけど。

博美 二人になった時だけみたいです。

寺井 え、で。なんでそれを中本さんが知ってるんですか。

博美 休憩室で。相談があるって言われたんで、話を。

寺井 なんで中本さんに？

博美 それは分からないですけど。

寺井 で？その後は。

博美 後っていうか、寺井さんに相談したらって言いましたけど。

寺井 ……

博美 はい。

寺井 ……あー、あー！はいはい。

博美 ？

寺井 あ、あれだわ。それ。今度ちょうどそういう時あるから。

博美 そういう時？

寺井 いや吉野さんとうん。話するっていうか、二人でうん。まあ具

体的にはこれからってどうか、そういうあれだけ。多分そこらへんのタイミングで相談ある、かな。

博美 そうですか。良かったです。

寺井 いやもうこつちのことなんで。事務所の中のことはドライバーさんには関係ないんで。

博美 そうですね。

寺井 ていうか話変わりますけどこないだ中本さん乗せたお客さんからクレームあったんですよ。

博美 え。どういう。

寺井 いや具体的にはあれですけど。ちょっとなんていうかも、ざっくり。気分悪いわ的な。

博美 俺のことなんですか。

寺井 はいまあ。若手の人って言ってたっていうか、そういうニューアンスのやつだったんで。ここドライバーみんなおじいちゃんだし若いのって中本さんくらいじゃないですか。

博美 ニュアンス…

寺井 まあとにかく気を付けてほしいんですよ。もっと意識高めでお願いたいです。仕事なんで。

博美 ……

寺井 え。なんですかその感じ。

博美 …いや。分かりました。

寺井 あー。いいんですよ。そのお客さんは俺が良いようにしときましたから。

博美 ……すみません。

寺井 ええ。ええ。まあ仕方ないです。ここのドライバーさんってみんな職歴あれじゃないですか。社会人としての経験値ちょっと足りてないっていうか。そのあたりカバーするのも僕らの仕事みたいなどこあるんで。

博美 ……はい。

寺井 あ、じゃあ。もういいですかね。

博美 はい。

寺井 ええ。お疲れ様でした。

寺井、去る。

その後ろ姿を見送る博美。やがて車に乗り込む。

三場

運転席でまっすぐ前を向いている博美。

そこへ男が登場。隆志。タクシーに近づき運転手を確認すると、助手席の窓をコンコンとやる。

「あっ」となる博美。慌ててドアを開ける。中途半端な中腰で覗き込んでくる隆志。

博美 えっ。

隆志 よっ。久しぶり。

博美 何。どうしたの。

隆志 飲み会飲み会。おっおく元気か。

博美 まあ、うん。

隆志 やく久しぶりに来たなこの辺。その「じろきっちゃん」で飲んでてね。「あれ？このあたりって博美がまわってるのかも？」とか思ってたこの色の車探してさあ

博美 ああ。結構飲んでる？

隆志 えくどうだろくどう？え、俺、どう？

博美 いや、ちよつと分かんないけど…

隆志 じゃあそんなに飲んでないよ。ていうかさちよつと聞いてよさつき「じろきっちゃん」で焼き鳥食ってたらさあ

博美 あ！ちよつと。とりあえず入ったら？

隆志 ええ？

博美 なんかすごい、喋りにくい。

隆志 ああ。ふふ。じゃあお願いしちやおつかなく。家まで、いい？

博美 ああ、うん。

隆志 おじゃまします。

後部座席に乗り込む隆志。発進するタクシー。

博美 よく俺って分かったね。

隆志 分かるよそりゃあ。この車、独特な色だもん。

博美 色。いやいっばいいたでしょうちの会社の、

隆志 だって他の人おじいちゃんばっかりだから。おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん、お兄ちゃん、おじいちゃんだったから「あ、この若いお兄ちゃん博美だな」って。

博美 若くはないけど。

隆志 若い若い。お前は若いんだよ。

博美 いや変わるんでしょ。

隆志 変わる変わるよ。40超えたらガクッと来るんだよ色々。膝痛とか肩上がんないとか腹の肉が気になるよとか。お前はガリガリだよ？ガリガリっていうかカリッカリだよ。

博美 ふうん。そう。

隆志 そうだよ、うん。ふふ。

会話の無い時間。なんかそわそわしてる隆志。

隆志 上手くなったなあ。運転。

博美 え。下手だったの俺。

隆志 ん。というか、なんか感動しちゃう。あんなちっちゃかった博美がこんな立派な車乗って仕事して。俺乗せてもらっちゃったりしてさあ

博美 何。気持ち悪いな。

隆志 何年目？

博美 今年で6年目かな。

隆志 おお、すげえなあ。

博美 なんとかね。続いでる。

隆志 良かったなあ。

博美 まあ、運転するのは苦じゃないから。

隆志 そうかも。博美は一人で静かにやれる仕事の方が向いてるかもしれないなあ。昔っからさ、放つといたらすぐ一人でどこか行っちゃってさあ。

博美 そうだっけ？

隆志 そうだよ。ジャスコの迷子センターのお姉さんに気に入られてたんだよ博美。常連さんだったから。

博美 え、うそ。

隆志 ほんとほんと。お前そういうところあるんだよなあ昔っから。女の人が構いたくなっちゃうって言うかさあ。いいよなあ。

博美 いや良くないでしょう…

会話の無い時間。ウインカーの音がやや響く。

隆志 あの。あのさあ。綾子さん元気？

博美 うん。まあ。

隆志 あの子は。綾子さんの、

博美 あずさ。

隆志 あくそうそう。あずさちゃん。何年生になったの？

博美 今、高3。

隆志 へえ。もう大人だねえ。前に会った時はコドモだったのに。

博美 まあ。見た目以外はあんまり変わってないよ。

隆志 むかしバーベキューして以来会ってないよなあ。

博美 そうだっけ。

隆志 そうだよ。またなんかやろうよ。家族ぐるみの付き合いとかやりたいよ俺。久しぶりに会いたいしさあ二人に。

博美 あー。兄ちゃんも彼女紹介してよ。

隆志 うん。ふふ。

博美 歳近いんだっけ。

隆志 俺の3つ下。

博美 ああ。

隆志 あく。キャンプ行きたいなキャンプ。どうキャンプ？

博美 うん。いいよ。

隆志 キャンプってすげえいいよなあ。テンション上がるよなあ。あ、なんかもうわくわくしてきたなあ。計画立てるわ。ふふ。

博美 ン。うん。

会話の無い時間。

急カーブに差し掛かり、二人の身体が大きく傾き、戻る。

そして赤信号。

博美 何。

隆志 ン？

博美 なんか話あるんじゃないの。

隆志 おお。するどいねえ。

博美 ずっとそわそわしてるから。どうしたの。

隆志 ん。うーん。

博美 ……

隆志 母さんからね。連絡があっただよ。

博美 え。

隆志 電話かかってきたの。急にさあ。知らない番号からで出たら、隆志く？って、ふふ。びっくりしちゃったよ。どこで番号調べたのかなあ。

博美 あ、へえ。

隆志 であ。俺たちに会いたって言うんだよ母さん。結構近くに住んでるみたいでさあ。知らなかったよなあ全然。

博美 あ、へえ。

隆志 なんかねえ、伝統工芸士っていうの？作家さんやってるんだって。

博美 あ、あ。へえ。

隆志 博美？

博美 あ、へえ。

隆志 え？

博美 え？何、え？

隆志 いや…青だよ？

博美 ……あ。

ゆつくりと発進。

長めの沈黙。

隆志 陶芸って言ってたかなあ。すっごいよねえ。昔母さんよく絵書いてくれてたでしょう？上手かったもんなあ。そういうセンスっていうか才能っていうか、あっただらうなあ元々。

博美 はあ。

隆志 俺たちのこともさあ。ずっと覚えててくれたんだって。すごく心配してたんだよって。

博美 へえ。はあ。

隆志 でね、一回ゆつくりお茶しようよって話になってね。ご飯でもいいけど。どっちがいい？

博美 え？

隆志 え？お茶か、ご飯か。

博美 え、えっと。ちよつと分かんない。

隆志 どっちでもいい？

博美 あー、いや、仕事とかあるし。

隆志 休みの日で大丈夫だよ。土日だと助かるけど、難しかったら俺休み取るから。合わせる合わせる。

博美 あー、あの一。あ、そう！シフトまだ出てなくて。

隆志 ああ、そうなのかあ。

博美 けっこう不定期っていうか。急に入れて言われたりするか

もしれないしなんか。

隆志 へえ、忙しいんだなあ。

博美 あ、まあ。はは。

隆志 じゃあ、シフトでたらまた連絡してよ。ね？

博美 あー。出るのかな？

隆志 え？

博美 出ると思うけど普通は。普通は出るんだけど。普通じゃない

っていうか、出ないこともあるっていうか出ないかも？ いや

出るかもしれないけど出ない時もあるっていうか。

隆志 えっ。出ない時もあるの？

博美 出るよ出る、大体出る。もうすとーんと出るんだけど普通は。

隆志 すとーん？

博美 けど出ない時はもう全然出ないっていうか。すんごい踏ん張

るんだけどこれなんだろうね。体調とかによるっていうか。

隆志 あれ。どっか具合悪いの？

博美 具合？ あー、うん。どちらかといえは。

隆志 え、本当？ 大丈夫？

博美 あーなんか。熱あるかも。昨日寝てないしあー、なんか、上が

ってきたかも。

隆志 えっ、えっ！ 大丈夫ちょっと、

博美 ああ、大丈夫全然。いつものことっていうか。またかって感じ

だからもう。

隆志 えええ。いつもなの？ お前病院行けよちゃんと。

博美 あーそうねうん。そうね。ちょっと、いい？ この辺で。

隆志 ああ、うん、いいよいいよ。もうすぐそこだし。

博美 ごめんね。っていうかごめん。

隆志 いいようん。ちゃんと休めよ？

博美 あー。うん。

隆志 これ、おつりいらさないから。薬代にして（と紙幣を置く）

博美 え、それは、

隆志 いい、いい！ いいから。ね。お大事にほんと。

博美 あ、ありがと。

隆志、車を降りて去る。

博美、置かれた紙幣を真顔で片付ける。

四場

博美、時計を見る。車を降りて歩く。

歩いているうちに部屋にたどり着く。

部屋には女がいる。あずさ。

ソファに寄りかかりテレビゲームをしている。

博美 あ、おう。

あず おかえりー。（テレビを見つめたまま）

博美 ただいまー。

あず お母さんならいないよ。

博美 知ってる。仕事でしょ。

あず えー。知ってるならいる時に来なよ。

博美 え、いや。

あず 最近仕事送ってあげないんだね。

博美 まあ。だって俺も仕事あるから。

あず 辞めればいいのに。

博美 何それ。

あず そしたらまた一緒に暮らせるじゃん。

博美 寂しいの。

あず 別に私はいいいけど。あなたたちの今後を心配してあげてるの。

博美 ああ。

あず 博美くんがニートしてた時の方が楽しそうだったよお母さん。

博美 ニートじゃない。バイトしてたし。

あず あれそうだったけ。

ソファに座る博美。

博美 うわ。懐かしいのやってんね。

あず でしょ。昔博美くんがよくやってたやつ。

博美 コントロール渡したら「怖い〜！」って泣いてたやつ。

あず 小学生の時じゃん。てかR指定だしこれ。

博美 ゾンビものはね大体そうだから。

あず セーブポイントが見つからないんだよなあ。

博美 あー(画面を見て)マップ見して。ここ。この角部屋にあるわ。

あず へえ。よく覚えてるね。

博美 何回もやってるから。

あず あ、見たよ実況。

博美 あー。

あず まあまあ上手いじゃん編集。しゃべりも。

博美 まあね。

あず なんて？

博美 え？何が。

あず なんで急に実況。

博美 いや。なんとなく。

あず その割には楽しそうだったけど。

博美 俺の方が面白くできるって思ったから。

あず あー確かに！くだらない実況者いっぱいいるからね。再生数

は？伸びてるの。

博美 うん。まあまあ。

あず おー。もうこれで食ってけば？ 広告収入あるんでしょ。

博美 いやそこまで本気じゃないし。

あず あ、そう。

あずさ、コントロールを博美に渡す。

あず やって。

博美 え、なんで。

あず コーラ取ってくる。

博美 ポーズかけときやいいでしょ。

あず やーだー。やって。ここのボス倒せない。

博美 えー。

あず なんて名前だっけ。タイランド？

博美 タイラン「ト」ね。榴散弾使えば倒せるって。

あず うん。だからやってよ。

博美 えー（と言いつつ受け取る）

テレビを見つめる二人。

あず あ、こいつめっちゃ強い。

博美 知ってる。

あず 体半分ぶっとばしても死なないんだよね。

博美 ゾンビだからね。てかコーラは？

あず 今行く。

と言いつつ動かないあずき。

ふと思いつき、ゾンビごっこを始める。

あず ううー（と博美に襲いかかる）

博美 お、ちよっと何！

あず ううーうあーううー

博美 ちよっとちよっと！何！今こっち忙しいから！

あず ううううー！

博美 こら、あず、やめ、…ううー

と、ゾンビごっこに乗っかる博美。

こちらはクオリティが無駄に高い。

博美 うあー！

あず うおおー！

博美 う、うヴおえー！

あず うぐわー！

博美 う？（コーラは？のジェスチャー）

あず う？うう。（取りに行こう）

とゾンビのまま消える二人。台所へ行ったらしい。

袖からうなり声が聞こえている。

出てくるとそれぞれコーラとポテチを持っている。

博美 ううー（とテレビの前に座る）

あず ううーううー！（とポテチの袋を開ける）

博美 うううううー（とコーラの蓋が固い演技）

あず あ、そういえばさ。

博美 うえっ。

あず ぶは。変な声。

博美 いや。急に終わるから。

あず もういいかなって。疲れた。

博美 あ、そう。

あず なんか高3なって疲れやすくなったわ。

博美 部活なくなったからじゃない？

とポテチの袋に手を伸ばす博美。

博美 え！ 無いじゃん！

あず え？ うん。

博美 俺全然食ってないのに。

あず ああ。はは。買いに行く？

博美 あーいいよ。行く？（と、立つ）

あず ポッキー買って来てー。

博美 え、何。俺一人で行くの。

あず うん。私こいつ倒さないといけないから。

博美 ええー。

あず はよ、はよ。

博美 ええー、もうー。

五場

博美、部屋を出る。

舞台背景に「ヒロミンの動画」の文字。
博美が話し始める。

博美

どうも！ ヒロミンです。先月からコツコツとアップしてる実況動画ですけどもね、今日の動画で20本目となりました。おかげさまでチャンネル登録数も今は500人くらいですかね。ありがたいことです。みなさんのコメント読ましてもらいますとね、「ヒロミンの毒舌ツッコミがいい」なんて言ってもらってますけど。僕ほんと感情移入型ゲームマーなんですよね。ゲームの主人公とかキャラクターの、心情って言うんですかね。気持ちがあね、分かるともうぐーっと入り込んでるんですよ。ほんで腹立つやつはほんと腹立つし。いつも言いたい放題言ってるし訳ないなあと思ってますけれども。まあね、そんなところも面白がっていたら嬉しいことです。

さてさて。今日は20回記念ってことであの伝説的RPG「龍の冒険」やっていきます。まあドラクエのことですけど（笑）僕ねえ初代ドラクエが好きなんですよ。みなさんこれ知ってますか？ ドラクエのセーブシステム。王様のところ行って

パスワード発行してもらうんですよ。「ふっかつのじゅもん」
って言うてね。それが20文字くらいあって覚えられない。昔
だから写メ撮るとかもできないでしょ。毎回メモしましたよ
〜大変だねえ。一文字でも書き間違えたらおしまい。やり直せ
ないんですよ不便でしょー。まあそんなのも今となっては面
白いじゃないですか。ってことで色々ツツコミながら遊んで
いきましようねえ。よし！じゃあ〜今日もいきますよみなさ
ん。せーの！ヒロミンヒロミン！……………（笑）では、どうぞ
〜。

六場

ごく面白い人なんだろうなあ〜。もしかしてお兄さんもゲー
ム実況者だったりして！兄弟で対戦ゲームしても面白いん
じゃない？いいと思う。考えてみてね！

女が話すのをただ眺めている博美。
女、去る。

背景の文字が消える。

タクシーの運転席に乗り込む博美。休憩の姿勢に入る。

通知音が鳴り、女が登場。

博美、車内で出発の準備をする。
そこに速足で近づいてくる寺井。
運転席の窓をコンコンとやって、身構える。
しかし素直に窓を開ける博美。

女

ヒロミン。いつも動画投稿お疲れ様。そして記念すべき20
回目の投稿おめでとう！ゲームも動画編集も喋りもどんど
ん上手になってすごいなあっていつも思ってます。今はま
だヒロミンの動画あんまり知られてないけど、きっとこれか
らすごく伸びていくと思うから頑張つてね！あ、でもあんま
り人気者になっちゃっても寂しいかも…なんてね★そうい
えば前回の動画でお兄さんがいるって言うたけど、ヒロミ
ンは二人兄弟なのかな。ヒロミンのお兄さんだからきつとす

寺井 ……（開けるんかい、と）

博美 お疲れ様です。

寺井 日報。

博美 はい？

寺井 出てないですよ。日報。

博美 いや、出しました。

寺井 俺見てないんですけど。

博美 え、昨日のですよね。吉野さんに渡しましたよ。

寺井 またか。

博美 え？

寺井 それやめてもらえます？

博美 それって。

寺井 吉野さん優しいから「はいはい」って受け取っちゃうと思いませんけど。俺に渡してください。どっちみち俺が最終チェックするんで。

博美 いやでも、寺井さんいない時とか

寺井 デスクに置いといてもらったらいいです。

博美 …え、なんか問題ありますか。別に誰に渡しても、

寺井 問題っていうか、必要なコミュニケーションはしなくても
らいたいって感じですね。彼女まだ若いし、この会社結構変な
人多いんで。

博美 ……

寺井 中本さん結婚してませんよね。

博美 はい？

寺井 付き合ってる人とかいるんですか。

博美 …それが何か。

寺井 じゃあ、尚更ですね。

博美 何の話ですか。

寺井 ええ？ あ、そういうの分かんないタイプなんです。中本さん
って。まあそうだろうなあ。分かってたらもつとわきまえた行
動しますよね普通。

博美 わきまえた？

寺井 勘違いさせないであげてほしいんですよ。

博美 え、ちよ、何の話ですか。

寺井 吉野さんの話です。

博美 ……（どっちだ？）

寺井 え、だから。吉野さん。

博美 ……いくぞ

寺井 （遮って）幾三さんの方じゃないです！ あんただんだけ好き
なんです。か幾三さんのこと。

博美 良い人ですよ。

寺井 あのね！ なんでこの流れで幾三さん出てくるんですか！ 今
までに幾三さんの話あなたにしたことありますか俺。

博美 あ、幾三さん。

寺井 ！

と、身を屈めて周囲を警戒する寺井。
博美、その隙にエンジンをかける。

寺井 え！ ちよつと！

博美 え？

寺井 まだ話終わってないですよ。

博美 けどもう（と腕時計を指す）

寺井 あなたのことが怖がってるんですよ。

博美 え？

寺井 吉野さん。事務の方の。

博美 怖がってる？ 俺を？

寺井 まあ。はい。

博美 吉野さんが言ったんですか。

寺井 そんなようなところですね。

博美 何もしませんけど…

寺井 え。なんですかそれ。吉野さんが悪いって言いたいんですか。

博美 いや悪いっていうか、話しかけられるから答えてるだけで、

寺井 それは彼女が気を使ってるだけでしよう。

博美 え、え？ あの、どうすれば…

寺井 そんなこと自分で考えてくださいよ。大人でしょう。

博美 ……

寺井 こちらとしては状況見て判断するだけなんで。問題起こさな

いように慎重に行動してほしいって言うてるんです。

博美 問題って…

寺井 お兄さんに迷惑かけたくないでしょう。

博美 え？

寺井 お兄さんの紹介なんですよねここ入ったの。

博美 ……

寺井 俺だってね、できますよ権限的にいろいろと。そりゃそうで

すよ積み重ねてきてるんで色々。でもやりたくないんですよ。

荒々しいことしたくないんですよ。え、分かります？

博美 ……あ、はあ。

寺井 ちゃんと仕事しましょう。それだけです。

博美 ……はい。

寺井 ええ。分かってもらえたなら良かったです。あ、いいですかね

もう行つて。

博美 あ、はい…

寺井 じゃ、今日も頑張ってくださいね。

寺井、去る。その後、博美も去る。

七場

着信音。

慌てた様子で登場する隆志。スマホを探すが、無い。

「あれ？」とポケットを探り、見つけ、「てへ」となる。

画面を確認。しばらく見つめていたが、やっと出る。

隆志 もしもし？（もしもし）うん。どうしたの。（今電話いい？）あー

えっと、うん。大丈夫だよ。（今日もね。あちらの娘さんと話してきてね）うん。（もう、お金のことばかり）うん。（父親の具合とか先

のこととかなんにも聞かないで、ずっとでね）そうなんだ。（もうお母さん、怖くてね。あんたも同じじゃないかって）え？（お母さんがそ

ういうことになったら、見捨てられて…お金だけって）そんなこと言わないでよ。大丈夫だよ俺たちはうん。母さんのことそんな

風に思わないからさあ。(そう？ほんとう？)うん。ほんとほんと。(そう。ならいいんだけど...)うん。(...)え、その人とはどれくらい付き合ってるの？(どれくらいって、うーん。20年以上は経つかなあ)へえ、そうなんだ。年上ってことだよ。(うん。10歳上)ああ、じゃあ年齢的には仕方ないよねえ。その娘さんは？(さあ。歳は分からないけど。冷たい人だわ)ああ、そっかあ。そっだよ。(病院のことも介護も何にもしないから、お母さんが一人で全部やってるの)でも無理すると母さんだって疲れちゃうでしょう。(そんなこと言ったって、他にやる人いないから)それはそうだけど、(それより、どうなった?)え？(前言った話)ああ、博美？いやあくなんか忙しいみたいでさ。(そうなの...)うん。また連絡してみるよ。(会いたくないんじゃないの。怒ってるんじゃないの私のこと。私なんか今更出てきて)ちよつとちよつと、そんなこと言わないでよ。せつかくまたこうやって連絡取れるようになったんだからさ。(隆志はうれい?)え？うん嬉しいよ俺は。頼ってくれていいからね。(早く会いたいね)うん。そっだね。また電話する。...うん、じゃあ、またね。

電話を切り、すぐにまた電話をかける。

隆志
.....あー、もしもし？俺俺。あ、そっかこの時間って仕事でだっけ？忙しいのにごめんなあ。ちゃんと病院行ったの？お金足りてる？なんか困ったことあったら絶対兄ちゃん

んに言えよ。あとシフト出た？どうだったシフト。次の休みとか分かったら教えてよ。母さんも割と時間あるみたいだからさあ。俺もまあなんとかなるし。まあ行くなら飯かなあ。母さん何好きだったっけなあ。あ、あのラーメン屋にする？昔家族でよく行ってたでしょ。あれ？あの店もう潰れたんだっけ。いやあ懐かしいよなあ、母さん出てくまではさあ、ほんと毎週行ったよなあ。父さんも生きてたら良かったんだけどなあ。まあでも母さんと三人でさ、また仲良くできるんだから嬉しいよ。あ、母さんさあ、今付き合ってる人いるんだってさ。すげえよなあ。俺らと離れてからずっとだっけ。あれ留守電って何分喋れるんだっけ。ええと、とりあえずあとは博美の予定次第だからさ。連絡してよ。じゃあねえ。

隆志、電話を切って去る。

八場

あずさ、登場。部屋の電気を付ける。
博美が横たわっている。

あず
うわ！びっくりした。
博美
んー
あず
何。電気付けなよ。珍しいねこんな早くに。どうしたの。

博美 別に。

あず お母さん最近この時間出かけてるんだよね。

博美 ふうん。

あず ふうんって。もっと気にしなよ。最近会ってる？

博美 ううん。

あず うち来るのも久しぶりじゃない？

博美 あー。んー。

あず …もしかしてお母さんと上手くいってないの。

博美 んー。いやあ。

あず 最近喋ったのいつ。

博美 んー。三人で飯行った時？

あず …三週間も前じゃん！それ以来会ってないの？

博美 まあ。

あず えー。大丈夫なの？

博美 大丈夫でしょ。

あず あ。じゃあさ。博美くんが会いたがってたって言っというてあげるよ。

博美 いやいや、いい、いい。

あず 自分で言う？

博美 んー。まあ、なんか考える。

あず ふうん。

あずさ、博美の様子を伺い、雰囲気を変えようとする。

あず 何人になったの。

博美 何が。

あず 動画。

博美 2000人とか。

あず え、すご。一か月で。

博美 面白いから俺の動画。

あず 自分で言う。

博美 だって面白いもん。

あず あの人どうなったの。重めのファン第一号。

博美 コメントは毎回来る。

あず 返事した？

博美 ううん。

あず えー、無視してんの。感じ悪。

博美 だってめんどくさそうだし。返し様もないし。

あず なんでもいいんだよ。ありがとう、とか一言でもさ。

博美 んー。

あず あ。博美くんいるならゲームしようかな。

博美 お、いいね。

あず 着替えてくる。

博美 ああ、はいはい。

あずさ、部屋を出ていく。

九場

スマホを取り出してみる博美。文字を打つてみて、消す。

舞台背景に「ヒロミンの動画」の文字。
博美が話し始める。

博美

えー、どうも！ヒロミンです。いやー暑くなってきましたね。車の中とかめっちゃ暑いですよー熱中症とか大丈夫ですかみなさん。部屋の中にもなるっていいいますからね熱中症。僕あんまり水分取らないんでね。いっつもぼやーっとしてますけどこれ熱中症かもしれないなーって思ったりしてね。そんなことより今日はね、なんと！チャンネル登録者数5000人突破っていうことで、いやーありがとうございますー。でも僕の動画、僕は面白いと思ってやってますけどみなさんどうなんですかね。何が面白いんですかみなさん。こんなおっさんがずーっと一人で喋ってる動画って大丈夫ですか。まあ僕18歳ですけどね。今度19歳。うん嘘(笑)

はいはい。ということでは前回の続きやっています。今回の動画ね、途中でもうどうにも眠くて我慢できなくなっちゃったんですよ。だから途中から声ガサガサなんですけど(笑)煙草吸うおっさんの寝起きの声はね、もう仕方ないの。まあ僕18歳ですけどね。ってことで、今日もみなさん、

女

いきますよー！せーの！ヒーローミン！……(笑)はい、どうぞ。

背景の文字が消える。

博美、だらだらと洗車を始める。

通知音が鳴り、女が登場。

ヒロミン、チャンネル登録者数5000人突破おめでとう★さすがヒロミン！でも驚いてないよ。きつとヒロミンは人気者になるって信じてたから！ヒロミンの動画って長くて30分くらいだから忙しい人でもサクッと見られてとっても良いよね。私は30分の動画何回も見ちゃうから、あつという間に3時間とか経っちゃうけど……(笑)そういえばヒロミンは好きな人っているの？ヒロミンみたいに素敵な人だったらきつと恋人くらいいるよね。正直言って、その人がちよつと羨ましかったり。嘘嘘。私はヒロミンが楽しかったらそれでいいよ。いつも私たちを楽しませてくれてるんだからね。いつもありがとうヒロミン★これからも頑張ってるね！

博美は女のことを気にしていない。
女、去る。

十場

洗車をしている博美。
寺井がゆっくりと近づいてくる。

寺井 中本さん。

博美 え、はい。

寺井 吉野さんが。

博美 え？ 日報なら寺井さんに、

寺井 日報は。はい。

博美 最近ほんと、喋ってないと思うんですけど…

寺井 辞めるらしいです。

博美 え？

寺井 吉野さん。正確にはまだ辞職願出てきたんですけど。

博美 寺井さんのところに？

寺井 いや。俺は何も。

博美 そうですか。

寺井 はい。

博美 あ、はい。

博美、洗車に戻っていいのかな？ どうかかな？ とうろろ。

寺井 え。理由とか知りたいと思いませんか普通。

博美 え？

寺井 思うでしょう普通。

博美 あ、ああ。ええと、理由は。

寺井 知りません。

博美 …（知らんのかい、と）

寺井 今「知らんのかい」って顔しましたよね？

博美 え！ いやいや「ご存じないんですね」って顔を。

寺井 一緒にしょ。

博美 あ、はあ。

寺井 精神的な理由とだけ、聞いてます社長から。

博美 あ、聞いているんですね。

寺井 あ？

博美 ああ！ いや。精神…まあ。じゃあ仕方ない。

寺井 仕方ない？

博美 だって無理しない方が、

寺井 あんたのせいじゃないの。

博美 え。

寺井 あんたのせいだろ。

博美 え、え。俺？

寺井 あの休憩室からずっとおかしかつたんだよ吉野さん。

博美 いやだから、それは金井さんの話を、

寺井 金井さんのことは解決したんだよ。

博美 ああ、そう、

寺井 俺がずっと見てたんだから。金井さんと二人きりにしないよ
うにずっと。デスクも移動して吉野さん俺の隣にして。出勤も
退勤も時間合わせたし。仕事中はトイレ以外ずっとそばにっ
いて見張ってあげてたんだから。

博美 ええ？

寺井 やっぱあんたになんかされたとしか考えられない。

博美 え、え、ちよつと。なんで俺？

寺井 あ？

博美 いや、だって。俺最近色々気を付けて、

寺井 見てたんだろ。

博美 へ。

寺井 見てたんだろって。吉野さんのこと。そういう目で。

博美 そういう目!？

寺井 だから吉野さんあんなオドオドしてたんだよ。いっつもビク
ビクして。何したのあんた。

博美 だから何も、

寺井 口止めたんだろ俺に言うなって。俺と喋るなってさあ。可
哀そうに吉野。あんたに弱み握られて俺と離れなきやいけな
くなつたんだ。

博美 えええ。

寺井 これ犯罪だから。

博美 はい？

寺井 あんた捕まるからな。

博美 え、え？

寺井 恐喝罪だよ恐喝罪。10年以下の懲役。

博美 え、俺何も、

寺井 訴えるから。

博美 いや、

寺井 吉野に何したんだよ。言えよ。なあ!

博美 いやあなたでしよう!!!

沈黙。

博美 あ。

寺井 あ？

博美 え？

寺井 何だよ。俺が何。

博美 :(とぼける)

寺井 いや言ったでしょ。何。

博美 あのー。寺井さん、かな？

寺井 何が。

博美 いや分かんないですけど、お話聞く限りその、寺井さんのそ
れかな？

寺井 それって。

博美 あー。ストーキング的な。

寺井 ん。

博美 つきまとつてらっしゃったというか。吉野さんに。

寺井 俺が悪いって言いたいのか？

博美 いやそこまでは、

寺井 言ってるよね。え？俺のせいにするのあんた。

博美 せいとかじゃなくて、

寺井 ストーキングって。あんた頭大丈夫か。すごい想像力だな。

博美 …寺井さんほどでは。

寺井 あ？

博美 ああ、いえ…

寺井 ゲームばかりしてるから頭沸くんだよ。

博美 え？

寺井 バレてないと思ってんだろ。なんだよヒロミンって。

博美 ……

寺井 知ってんだよこっちは。いくら稼いでんの？あ？

博美 ……

寺井 分かってますよねえ中本さん。うちの規則。分かかってやってるんですよねえ。副業禁止なんですよ。あれえ知らなかったですかー？困るなあ規則ぐらいちちゃんと読んでもらわないと困るなあホント。いい歳してそんなこともできないんですか。嫌だなあー！

博美 ……

寺井 これだから嫌だわ社会不適合者は。

博美 ……

寺井 そういうことなんで。

寺井、去る。

立ち尽くす博美。やがて車に乗り込む。

十一場

ただ座っている博美。

助手席の窓を叩く音。振り向くと隆志がいる。

隆志 よつ。

博美 …おう。

隆志 あれ、どうした。顔色悪いよ。病院は？行ったんだよね。

博美 ああ、うんまあ。ちよつと考え事。

隆志 何何話聞くよ。家まで。いい？

博美 あ、ああ。えつと。

隆志 あ、予約入ってる？

博美 あー、あの。いや。うん。どうぞ。

隆志 うん。お邪魔します。ふふ。

博美 あ、はは。

乗り込む隆志。発進する。

隆志 何かあった？

博美 あー。いや、まあ…

隆志 仕事でなんかトラブったとか？

博美 ーあー、ううん。

隆志 じゃあ、綾子さんか？

博美 あーはは。いや。

隆志 なんだよく内緒か？ え、いい話？

博美 いやあ。

隆志 じゃあ何よ。

博美 まあ、まあちよつと。そんな大したことじゃないから。

隆志 そうなの？

博美 うん。ほんと、うん。

会話のない時間。

隆志 あ。どうする？

博美 え？

隆志 ご飯。母さんと。

博美 あ、あー。

隆志 次の休みいつ。

博美 休みはまあ、明後日とか。

隆志 おお、じゃあ

博美 けどちよつとほら、あの一。用事あるっていうか。

隆志 ああそうなのかあ。じゃあその次は。

博美 その次は。えっと、シフトがなあ。

隆志 シフト…

博美 うん。出てなかったりなんたりで

隆志 ああ…

博美 うん、そう。

隆志 ……

赤信号。停車する。

隆志 博美もしかしてなんか、

博美 えっ。

隆志 なんか、思ってる？

博美 え、え？ 何が。

隆志 いや。母さんのこと。いや俺のことか…？

博美 え、何が何が。

隆志 だってなんか、避けてるよな？ 電話も出ないし。

博美 あーそれはなんか忙しくて。

隆志 にしてもちよつとおかしいような。

博美 そう？ そうかな？

隆志 うん。なんかあるの？ 俺、なんかした？

博美 ……

隆志 博美？

博美 あ！青だったほら。また忘れてたわーふふ。

急発進する。

博美 あ、なんかすげえふかしちゃったはは。

隆志 ……

博美 あーなんかさあ。今やってるゲームがすごい面白くてうん。

隆志 ……

博美 ていうかこっちで合ってる？道。

隆志 うん。

博美 あれなんか今日混んでるな。混んでる。

沈黙。

博美、耐えきれずラジオを付ける。

音声 えーということで今日のテーマは「家族との思い出」という

ことで。みなさんの家族と過ごした思い出をどんどん

チャンネルを変える。

音声 こないだね、あの話題の映画観てきたんですよ。「ファミリー

タイム」。

変える。

音声 (歌) 昔母さんで行ったコロッケ屋がつぶれたよー

博美、ラジオを消す。

博美 なんもないなこの時間。面白いのほんっとなんもない。

隆志 博美、一回話しようか。

博美 え？しないしない。話すこととかないし。

隆志 あるでしょう。

博美 ないって。

隆志 いや、だってお前、

博美 だからないって！！

隆志 ……

博美 あ、いや。はは。無いよ。

隆志 博美？

博美 何も。うん。特に何も思っていないっていうか。考えてないもん

いつも俺。

隆志 そうか。

博美 うん。そう。

赤信号。

ウインカーの音が響く。

隆志 ごめんな。仕事の邪魔して。

博美 えっ。

隆志 ここでいいよ。これ。(と紙幣を置く)

博美 いや多い、

隆志 (無視して) じゃあね。

隆志、車を降りて足早に去って行った。

車内に一人残された博美。

通知音。スマホを見る。

あずさが出てくる。

あず 博美くん明後日仕事休みだよね？ 三人で夜ご飯食べに行かない？ お母さんも仕事休みなんだって。

あずさと目が合う博美。すぐに目を逸らす。

あずさ、博美を見ていたが、やがて去る。

十二場

舞台背景に「ヒロミンの動画」の文字。

博美、話し始める。

博美

あー。えー。どうも。ヒロミンです。なんとなんと。チャンネル登録者数8000人突破しましたー。すごいですねえ。えーあー。ありがとうございます。いやあーなんと始めた実況動画ですけど、ここまでいけたのはほんとみなさんのおかげです。そこでね、もう僕みなさんにこの身体捧げることにしたんですよ。っていうのは冗談ですけどねー。でもまあ、みなさんのリクエストにとことんお答えしていこうっていうことでね、生配信企画もやっていきたいと思えますよこれからは。明日から毎日、クリアするまで寝られないシリーズやってみましょうねえ。ゲーム何がいいですかー。長いやつがいいですね。あ、僕ねえツイッターも始めたんですよ。で、そこでアンケート取るから。みんながやってほしいやつ言って、なんでも。

じゃあね、今日も前回の続きやっていきたいと思えますよー。なんかコメントでいろいろ教えてくれる人いますけど、ネタバレやめろって言うてる人もいますけどねえ。こっちとしてはなんでもいいから荒らすのやめろって感じですねえ。仲良くやりましょうよ。ねえ。ヒロミンそういうの、嫌いですがからねえ。はい！ じゃあ今日もみなさん一緒に楽しんでいきましょう！ せーの！ ヒロミンヒロミンヒロミンチャンネル！ どうぞー。

横たわる博美。

通知音が鳴り、女が登場。

女

ヒロミン、なんか最近すごいね！毎日2本ずつ動画アップしてるのにさらに生配信企画までしてくれるなんて。しかも最近ツイッターでヒロミンと話ができるし、動画のコメントも見てくれるみたいだし。前まであんまりヒロミンのこともよく知らなかったけど、最近どんどんヒロミンと仲良くなれてる気がしてすごく嬉しい！っていうかもうすぐチャンネル登録者数10000人だね！突破記念のイベントは何するの？他の実況者さんは25時間耐久生配信とかやってるよ。ファンと電話したりお家紹介したり。あ！弾き語りとか歌もいいなあ。ヒロミンがいろんなことをしてくれるのですごく楽しいです。これからも頑張ってるね★

女を眺めていた博美。

体を起こして女の方に向かおうとするが、女はさっさと消えてしまった。

代わりに寺井が登場。博美に向かって話し始める。

寺井 お疲れ様です。例の件、上司に報告しました。

逃げる博美。

するとその先に隆志が登場。

隆志

この間ありがとう。母さんのことだけど。

逃げる博美。

二人の言葉が博美を追う。逃げ回る博美。

寺井

やはり規則違反ということで、

隆志

会ったんだこの間。二人で。

寺井

先ほど上司と話し合った結果、中本さんは本来であれば

隆志

母さん一人暮らしみたいです。俺一緒に住もうかなって

寺井

解雇もやむを得ない状況ですが、我々としては

隆志

彼女にはまだ話してないけど分かってくれると思う。

寺井

中本さんが態度を改めるということであれば、処分を

隆志 家族だからさ、仕方ないよな。俺たちが面倒見ないと。

寺井 減給と二週間の出勤停止という形に留めることも可能です。

隆志 あと母さんが付き合ってる人、今施設に入ってるって

寺井 今回のことに限らずこれまでの勤務態度も踏まえると

隆志 認知症なんだって。母さんが介護してあげてるらしくてさあ

寺井 いろいろと指導が必要になりますがそれでも

隆志 母さんそれで精神的に参ってるみたいで。心配だよねえ。

寺井 中本さんがどれだけ誠意を見せてくださるか、

隆志 俺も手伝ってあげるつもりだから。色々。

寺井 結局のところあなた次第ということですよ。

隆志 結局のところ俺らが協力してあげないとき

寺井 分かりますよね中本さん。社会人なんですよ。

隆志 分かるよな博美。家族なんだから。

二人の声から逃げ回っていた博美。

部屋で見つけたパソコンの画面にかじりつく。

二人、去る。

暗転。

十三場

舞台背景に「ヒロミンの動画」の文字。

パソコンの前で突っ伏している博美。音声が響く。

博美(声) えーどうも！みなさん！元気ですかあ？ヒロミンで

す。こないだの25時間生配信、盛り上がりましたよねえ。

いやあく楽しかった〜もつとやりたかった〜40時間くら

いできそうだったもん俺〜みなさんがヒロミンのことすっご

い好きな気持ち伝わった！もう！ありがとう！あの日や

ったゲームの続きは

突然音声が途切れる。

通知音が鳴り、女が登場。

女

ヒロミン、がっかりです。ヒロミンはファンをもっと大事にする人だと思ってた。私たちのことあんな風に思ってたなんて最低です。すつごく傷つきました。ゲームのこともひどい言い方してた。ゲームを作った人に失礼です。いくらヒロミンでも今回はさすがに許せません。昔からずっと見てきたけど、ファン辞めます。不快なのでもう動画あげないでください。

博美、顔をあげると、女が見下すように立っている。

手を伸ばす博美。無視して女、去る。

博美、また突っ伏す。しばらく。

あずさがもたもたと登場。

博美を見つけて話しかける。

あず ねえ博美くん。タイランドってさ、どうやって倒すの？

あず 何回やっても勝てないんだけど。

あず タイランドも頭撃ったら死ぬんじゃないかってっけ？

博美 ……タイランド。

あず マシンガンとショットガンでやってんだけど。全然効かないよ。なんで。

博美 だから、榴散弾。

あず どうしたら博美くんみたいに上手くできるの。

博美 だから、

顔を上げる博美。

十四場

そこはあずさの家になる。

二人並んでテレビに向かう博美とあずさ。

コントローラーを持つ博美。テレビを指差しながら。

博美 だから、その部屋に入った時絶対出てくるでしょ。そしたら音楽変わるから。すぐ分かるから。

あず うん。で。

博美 で、もともと装備しとくの。

あず 榴散弾。

博美 そう！ 前の部屋のゾンビ倒したらすぐ装備変えて、

あず 回復は？

博美 あー、それはまあ状況見て適当に。部屋入ったら左の窓から来るから。で飛び込んで来たら一瞬隙ができるのね。そこをまづ一発やる。そんですぐこっち来るから、ここの、これ、ここの、ね、

あず うん、このテーブル？

博美 あー違う違う、これじゃなくてこっちの、このあたりにあるから。うん。そしたらこれを右の方回っとくの。こう、こう！ そしたら攻撃届かないから。

あず おおー！

博美 そんで一発避けといて、あっちがふらついてる隙にもう一発。

あず ええーできるかな。

博美 できるで。で、最後となりの部屋行って、配電室。こっちの方が広いから。そしたらある程度距離取りながらあと3発撃てばいい。あ、3発しか入らないから弾。榴散弾。撃ったらすぐ装填して。

あず うん。

博美 すぐね。

あず おっけ、すぐ。

博美 何発？

あず 3！

博美 ああ！ セーブしたっけ？

あず した！

博美 うん。よし。いけるいける。いこう。はい。

博美、コントローラーをあずさに渡す。

あず よし…よし！ いくよ！

博美 うん。いこう。

あず ええと、まず榴散弾装備して、そしたら、

博美 あちよつとまってこっちのゾンビ全部やった？

あず やったやった。さつき。

博美 ン。オツケ。

あず え、行くよ？

博美 いいよ。左ね。

あず 左の窓…来た！

博美 撃って！ とりあえず撃って一発！

あず (コントローラーをカチャカチャやってる)

博美 おっけ当たった！ そんでそっち！

あず えこっち！？

博美 こっちこっち！ ここ回ってこう、

あず あこっち！？

博美 ちが、あ、来てる来てる後ろ！！とりあえず隣、隣行って！

はい、で、離れて、遠くから一発！

あず うおおお！

博美 外した！ もう一発！ あ違う先逃げてあっち

あず え、ちよ、ここ行けないんだけど！

博美 三角押しして三角！ ジャンプ！

あず あ、そーゆーのあんの、

博美 で撃って、もうそこからいいから撃って！

あず うおら！！ (とカチャカチャやるが)

博美 弾ない！ 弾ない！

あず ああああおおお！

博美 ふふ、入れて弾ふふ

あず 何！ 何笑ってる！

博美 いやちよつとふふふ (ツボった)

あず はあ？ なんで、何が、うわ！ もう死ぬって！

博美 ふふ弾、はよ、ふふ

あず こっち行ったらいいの！？ ねえ！？ こっち！？ 博美く

ん！？ え？ ああああー！ ほらゾンビいるじゃん！！！！

博美 くくく (声にならない笑い)

あず ああ、あ！ あ！

あずさ、コントローラーをカチャカチャやるも、敗北。

あず ああー！。ちよつと博美くん！ ちゃんと指示してよ！

博美 あー。ふう。疲れた。

あず 何ツボってんの一人で。

博美 分かんない。なんかこのうわーって感じがすげえ、：

あず ウケすぎ。もうちよつとだったのにもー！

博美 あー。はあ。はあー。

横たわり脱力する博美。

博美 なんかもう、どうでもいいー。

あず 良くないよ。これ倒さないと次のとこいけない。

博美 これでいいよ。このまんまで。

あず え、何。何の話。

博美 んー。

博美、そのまま寝ようとする。

あず え、寝るの

博美 うん。

あず タイラントは。

博美 うん？

あず タイラント。

博美 うん。

あず うんじゃなくて。

博美 うん。
あず お母さん帰ってくるよ。
博美 えっ（と起きる）
あず え、何。嫌なの。
博美 嫌、じゃないけど。
あず じゃあ何。
博美 いや、あの。
あず うん。
博美 俺さ、多分仕事クビになるんだよね。
あず うん。
博美 うん。
あず うん。で？
博美 え？
あず え。だから何？
博美 何って…また無職になるのよ？ しかもクビって。結構さ。あれでしょう。
あず あれって。
博美 や、なんか。無い、でしょ。
あず ああ。何、お母さんのってこと？
博美 うん。だって39にもなってクビって。無職ってそんな、あず 歳が問題なの？
博美 歳。まあ、歳なのかな。社会的にっていうか。
あず ふうん。別にいいんじゃない。博美くんゲームできるし。

博美 ゲームって。そんなの何にもならない。
あず 実況してんじゃない。
博美 いやそれは。っていうかそれこそどうなの綾子さんの。
あず ええ？ なんてお母さんが気にすんの。
博美 え、だって彼氏が定職就いてないって嫌でしょう。不安にならない？
あず さ、想像してみる。
あず ああ。はは。
博美 でしょう。
あず 確かに。彼氏がそうだったら嫌。
博美 ほら。
あず でも私の彼氏じゃないし。
博美 え？
あず 博美くんの仕事とかどうでもいい。
博美 そうなの？
あず うん。別に無職でも博美くん、まあまあいいやつだし。
沈黙。
あず え。まあまああってあれだよ。良い意味だよ？
博美 あ…

あず あ。目覚めた？

博美 まあ…

あず じゃあもう一回やる。タイラント。

博美 うん。

あず 次は絶対勝つから。

博美 うん。

あず てか三角ボタンでジャンプは先に教えといてくれないとさー。

博美 あずさ。

あず んー？

博美 俺ってあずさの何？

あず 何って何。別になんでもないよ。

博美 そうか。

あず えつとなんだっけ。まずこの部屋のゾンビ全部倒して榴散弾

装備して右の窓から、

博美 ひだり…

あず あれ、私今何て(言った)

博美 ひだり…

あず えっ！なんで泣いてんの。

博美 ひだ、り…ひ…ひ…

あず いや左分かったけど！えっ何私がバカ過ぎてってこと！？

え、え、仕方なくない？

博美 なんでもない…

あず いやなんでもなくて泣く？ええー…博美くん？

十五場

博美が一人、部屋にいる。座ってじっとしている。

コントローラーに手を伸ばす。

ゲームを始めてしばらくして、手を止める。

そしてスマホを手に取り操作。誰かに何かを送る。

別空間に現れる寺井。座っている。

博美、寺井のもとへ歩いていく。

博美 すみませんでした。

寺井 …何がですか。

博美 えつと。無断欠勤と、動画のことです。

寺井 まさかまた出てくるとは思いませんでしたよ。

博美 あ、はい。

寺井 このままフェードアウトすると思って、

博美、寺井に封筒を渡す。寺井受け取り。

寺井 なんですかこれ。

博美 退職願です。

寺井 退職？辞めるんですか？

博美 はい。

寺井 え、留守電聞いてないんですか。減給で済ませせることもできるって言いましたよね俺。

博美 聞きました。

寺井 え、分かっています？ 自分の状況。大した学歴も職歴も無くても、しかも39なんですよ中本さん。

博美 分かっています。

寺井 ここ辞めて、もっといいところ入れるとか思っているんですか。

博美 いや。

寺井 なら、

博美 でも、なんとかなると思っています。

寺井 はあ？ 何それ。実況で食えると思ってるの。

博美 分かりません。やってみて、駄目なら他の仕事探します。

寺井 何だよそれ…そんな半端な気持ちで生きていけると思っ
ていける人なんてほとんどいないんですよ。好きなことで食っ
ていける人なんてほとんどいないんですよ分かってます？

博美 はい。

寺井 周りにも、…

隆志が登場。誰かを探している。

寺井、隆志に気付いて。

寺井 周りにも迷惑かけるんですよ？ ていうかかけてるんですよ

もう。考えたんですかちやんと。考えてるんですか人のこと。

博美、隆志を見て。

博美 分かっています。でも向き合うしかない。

寺井 ……

博美 と思っています。

寺井 ……なんだそれ。偉そうに。

博美 ……

寺井 あんたやっぱりおかしいよ。

寺井、立つ。行こうとする。

博美 寺井さん。

寺井 ……（立ち止まる）

博美 ありがとうございます。

寺井、振り向かず去る。

博美、頭を下げる。

そんな博美に気付いた隆志。忙しなく近寄る。

隆志 おお、おお。いたいた。

博美 ……おう。

隆志 ごめんごめん遅くなった！なんかばたばたしちやっつてさあ。
いやあこの店賑わってんなあ。(と辺りを眺める) おおー。
生100円だって。

博美 うん、

隆志 あ、なんだあ1杯目だけかあ。

博美 ん、うん。

隆志 何食う？あ、もう頼んだ？

博美 いや。

隆志 あ、じゃあ、

博美 あ、いや。頼んだ。テキトーに。

隆志 お、そっか。さんきゅ。

博美 うん。

間。

隆志 (同時に)二人で飲むなんて(久しぶりだなあ)

博美 (同時に)忙しいの。

隆志 おお。

博美 あ、ごめん。

隆志 ううん。何何。

博美 ああ、えっと…忙しい？最近。

隆志 まあ、そこそこね。あ、いや、でも今日はうん。大丈夫。

博美 あーあの…母さんのこと？

隆志 ん？ううん、まあ引越しの準備とか、母さんの周りの人
ともねえ、いろいろと話はしてるところさあ。

博美 そうか。

隆志 母さんほんっと変わってないわ。部屋の中の物がさ、もう
整頓できないんだよ。昔からそうだったよねえ。床に置きつ
ぱなしにしたりホコリもすごいしさ。冷蔵庫もそう。「賞味期
限これいつのだよ！」ってやつばかりでさあく笑うよほん
と。

博美 うん。

隆志 あ、しばらくはバタバタしてるけどさ、落ち着いたら博美も

博美 あ、あのさ。

隆志 ん。

博美 俺は、うん。

言い淀む博美。

隆志、博美の言葉を待つ。

隆志 博美。別に無理に、

博美 いや、待つて。あの…

隆志 …うん。

博美 俺は、俺はさ。

隆志 うん。

博美 か、母さんのことは、ちょっとまだ、受け入れられない。
隆志 うん。
博美 ……家族だからって。家族でも。家族っていうか、俺を産んだ人であることには変わりないんだけど。一緒にいた時のことも覚えてるけど。あの人がしたことは、どうしても許せない。
隆志 そうか。
博美 会いたくない。
隆志 うん。
博美 兄ちゃんの希望はできるだけ叶えたいんだけど、どうしてもずつと言えなくて。避けてた。ごめん。
隆志 うん。
博美 俺、この歳で…ほんと子どもっぽいんだけどさ。今会っても…多分、色々言っちゃうと思う。
隆志 色々？
博美 そういう…責めるようなこと。今まで辛かったこととか思ってたこととか、そういう。抑えられる自信ない。
隆志 ……言ってもいいと思うよ。
博美 え？
隆志 言えばスッキリするかもしれないなあ。
博美 しなかったら？
隆志 その時はその時。
博美 え、でも、傷つけるかもしれないよ。
隆志 傷つけたくはないんだ。

博美 ……そりゃあ。
隆志 やっぱり、家族だから？
博美 それは違う。誰でも同じだよ。傷つけたくはない。
隆志 うん。そうか。
沈黙。
隆志 優しいなあ。博美は。
博美 いや。
隆志 俺だって、色々思うことあるよ。
博美 え？
隆志 最初電話かかってきた時なんかさあ。ほら番号が分かんないから。出てもピンとこないんだよねえ。「どちら様ですか？」
「ご用件は？」って何回も聞いちゃってさあ。
博美 うん。
隆志 そしたら「覚えてないの？ 息子なのに」って俺のこと責めるんだよあの人。覚えてるわけねーじゃん！だってもう20年以上経ってんだよ？ 分かるわけないよ。って。
博美 うん。
隆志 ほんっと。自分のこと棚に上げてさ。どの口が何言ってるんだよって、その時は思ったよ。うん。
博美 ……
隆志 多分これからも色々出てくると思う。いーっぱい。

博美 ……それでいいの。

隆志 ー。分かんない。けど、喜んでるから母さん。それはそれでなんか嬉しい。やり直せる可能性がちょっとでもあるなら、やってみたいなあって思うしねえ。

博美 うん。

隆志 ……ゆつくりでいいよ博美は。ずっとこのままでもいいし。

博美 うん。

隆志 自分で選んだらいい。

博美 ……うん。

通知音。博美のスマホから。

博美、スマホを確認する。

隆志 さあ、飲むか！ 飲む、な！ 二人で飲みに来るなんてもう

何年振りだろうなあ。生でいいか？

博美 ……

隆志 博美？

博美 うん。

十六場

部屋の隅でうずくまっているあずさ。

博美、静かに入室する。

博美 あずさ。

あず ……

博美 あずさ。寝てるの。

あず ……

博美、部屋の中を歩き始める。

棚やタンスを開けては、物を集めてまわる。

あずさの表情は確認できない。

博美 話したよ。綾子さんと。

あず ……聞いた。

博美 そうか。

あず ……

博美 理由は、聞いた？

あず ……知ってた。

博美 ああ、そうなんだ。いい人いるって？ まあ。一緒に住んでたら分かるか。

あず ……

博美 俺が悪いよ。

あず ……

博美 会っても気まずくて。ずっと避けてた。

あず ……

博美 逃げてたのは俺だから。そりや他の人好きになるよな。いつこうなってもおかしくなかった。

あず ……

博美 ごめん。俺が悪い。

あず うるさいなあ。

博美 え？

あず あんたら勝手すぎるよ。

博美 ……

あず 勝手に付き合っつて勝手に転がり込んできて。

博美 ……

あず めちゃくちゃ嫌だった。家に知らん男の人いる。母親は女の顔してる。自分の欲満たすことしか考えてない大人。

博美 うん。

あず あんたらは好き勝手して。こっちの気持ちなんて聞かないで全部勝手に決めて。合わせるしか生きていく方法なかった。だから仕方なく合わせてやって、せっかく慣れて、楽しく生きられるようになってきたのに。

博美 うん。

あず 何また壊してくれてんの。私の生活。

博美 ……うん。ごめん。

あずさ、立つ。

博美に顔を見せないまま去ろうとする。

博美 どこいくの。

あず ……

博美 危ないよ。もう遅い。

あず 知らんわ。

博美 あずさ、

と、あずさの手を取ろうとする博美。

振り切つて博美の胸に殴りかかるあずさ。

あず 何！ もう関係ないんでしょ！ 全部持つて出てくんでしょ！

他人になるんだからもう！

博美 あずさ、

あず なんでこんなになるまでほつといたの！？ 馬鹿なの！？ 博美くんがちゃんとあの人と向き合わなかったからこうなったんじゃない！

博美 うん。

あず あの人もなんだよ！ なんだよ「好きな人出来た」って！！ 出来たじゃねえよ作つたんだろ！ お前が選んだんだろ！ もつと反省しろよ一人の人生狂わせてる自覚あんのかよ！

博美 うん。

あず なんで私ばかりこんな目に遭うの！？ 私なんか悪いこと

博美 うん。 したの！？なんでこんな、何が、何が！

博美 うん。

あず もう嫌だ！…もう、嫌…

博美 うん。

あずさ、床に崩れて泣く。

博美も床に座る。あずさが落ち着くまで見ている。

博美 あずさ。今は、どうしたい？

あず ……

博美 俺は、できたらもう少しここにいたい。でもいなくなっってほしいならそうする。一人になりたい？

あず ……なりたくない。

博美 うん。じゃあ、いるよ。

二人、ただそこにいる。

あず ……ご飯。

博美 ン。

あず 食べたかった。

博美 三人で？

あず うん。

博美 そうだな。

あず ゲームも。

博美 ああ。昔は三人でしたもんなあ。

あず 映画。

博美 うん。観に行った。いっぱい行ったなあ。

あず 車で、旅行。

博美 うん。あずさずっと寝てたけど。

あず 酔うんだもん。後ろの席。

博美 そうねえ。あとは。

あず 煙草。

博美 煙草？

あず やめてほしかった。

博美 おお。吸いたって言うのかと。

あず 嫌。くさい。

博美 ……ごめん。あとは。

あず パンツ。

博美 パンツ？

あず パンツ。

博美 パンツ…が何？

あず パンツだけでいいないで。

博美 ああ、部屋で？ごめん。

あず 毛深い。

博美 ……それは仕方ないでしょ。毛深いの嫌？

あず 嫌。

博美 ええ…なんかごめん。

あす 歯並び悪い。

博美 もう悪口じゃんそれ…いやだったの？

あす …別に。

博美 そうか。

あす 嫌じゃない。

博美 そうか。

あす うん。

博美 あとは。

あす …楽しかった。

博美 そうか。

あす …うん。

博美 うん。

あす ……

博美 あとは？ もう無い？

あす …ある。

博美 うん。言つて。

二人、まだそこにいる。暗転。

十七場

舞台背景に「ヒロミンの動画」の文字。

博美、話し始める。

博美 えー。どうも。ヒロミンです。えー今日はですね、ええ、何と

言いますか。お話と言いますか。…僕の実況の中でね、こう、

発言したことで不快な気持ちになった方がいたと思います。

いつも応援してくれてる視聴者のみなさんのことをですね、

応援を踏みにじるような言い方をしてしまいました。もう、こ

れは…僕が悪いです。本当に申し訳ありませんでした。

僕ね、最近ほんと、いろんなことがあります。なんでみん

な色々言ってくるのかなあって思つて。その人の都合ばっ

かり押し付けられてる気がしてね。逃げ回ってたんですよ。そ

う。ずっと「にげる」コマンドですよ。でね、見つけたんですよ。

セーブポイント。回復してくれてね。好きにしたらつて。

別にいいじゃんつて言ってくれる人がいたんです。自分をそ

のまんま受け入れてもらえた気がして嬉しかったんですよ。

…でも「そのまんま」でいるとね、自分と向き合わなきゃい

なくなるんですよ。それで自分と向き合うためには、あの人

たちとも向き合わなきゃいけない。これがすごく辛いんです。

でもやらないと。上手いかなくても、失敗してもね。無かつ

たことにはできないですけど、やり直すことはできるんだな

つて。そのためにセーブポイントはあるんだなつて。一緒にい

てくれるんだなつて。そんなことを最近ね、思うようになった

んです。

だからもしこの動画を観てくれる人が……ここにいてくれる人が。一人でもいるんなら、もう一度やり直して、やってみないなと思ってます。また失敗したらごめんなさい。そしてまたやり直して、やらせてください。これからも、付き合ってくれたら嬉しいです。

エンディング。

〈幕〉

背景の文字が消える。

博美、去る。

あずさはまだそこにいる。

いつの間にかテレビに向かっている。

コントローラーを手に、集中。

あず ……左、左……で、一発。こっち来て、……ああ！

もう1回。

あず ……左の窓から来る、来て、一発撃って、テーブルを右で、避ける！今のうちに一発！で、で……配電室……一発……あ！たま、弾入れて……ここから、1, 2, 3発！

あずさ、立ち上がり、画面に見入る。

そして小さく笑う。